

名勝名古屋城二之丸庭園整備計画について

1 基本理念

尾張の庭園文化を象徴する二之丸庭園を現代に再生し、継承していく

- ・藩主居館に築かれた大規模な回遊式庭園を近世の姿を基本として修復と復元により再生する
- ・近世から近代の歴史的経緯が刻まれた風致景観として一体的に整備する
- ・尾張で育まれた庭園文化を実感できる活用を展開する

現存する数少ない城郭庭園である二之丸庭園は、藩主が日常を過ごす生活の場であり城の中心として機能した二之丸に造営された庭園である。その後の歴史的経緯も含め、尾張の庭園文化を象徴するものであり、保存整備にあたっては、比較的良好に残された文化・文政期の大名庭園と明治期に将校集会所前庭として築庭された庭園の継承が前提となる。

保存整備の基本は、このような現況を考慮しつつ、近世の絵図類、文献、古写真等の史資料、さらに発掘調査の成果を修復・復元整備に反映して大規模な回遊式庭園を現代に再現し、来園者がその魅力を楽しむような視点場や回遊性を回復することである。また、活用にあたっては、庭園文化を広く喧伝し、将来にわたって文化資産として継承することである。それにより、尾張徳川家の藩主居館で展開された豊かな庭園文化や優れた造園技術を伝え、明治期に加えられた価値とともに一体的な保存活用を図っていく。

2 基本方針

○現存する庭園の修復整備

北御庭及び近代前庭（二之丸御殿北西跡）を中心とした現存する庭園を修復整備し、遺構の保存と空間性の回復を図る。修復に際しては、江戸期の作庭内容のみならず、明治期以降の造園内容にも十分配慮して行うものとする。

○地下遺構の保存と庭園の復元整備

二之丸庭園の地下に遺存する江戸期～明治期の庭園や二之丸御殿等の遺構について、遺存状態とその内容を発掘調査によって確認のうえ保存を図り、潜在化している庭園空間を地上に復元する。現存する「余芳」及び「風信」は原位置に移築再建し、周辺の庭園空間を復元する。

○近世から近代の歴史的経緯を踏まえた庭園の再生

二之丸庭園は近世の大名庭園を基礎とするが、近代の仕事は将校集会所前庭のみならず北御庭の園路や北園池など近世に造営された範囲にも加えられている。それらの歴史的経緯を尊重しながら全体として一つの風致景観となるよう、現代に生きている回遊式庭園として再生する。

○庭園文化を体験し、感じられる活用の展開

尾張の庭園文化を体験し、理解を深められるような公開活用施設の整備を行う。「余芳」及び「風信」は、移築再建後の活用を検討し、史料から往時の利用方法をうかがえる植木屋及び霜傑周辺も積極的に活用する。また、公開活用においてはバリアフリーについても配慮する。

■二之丸庭園現況図



■二之丸庭園課題総括図

